



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 59 号

2008.12.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつけています。

も く じ

お知らせ

- ー 冬季閉館について
- ー 高原の自然館ホームページの一時停止

活動報告

- ー ゴギの産卵観察会
- ー 紅葉と冬芽の観察会
- ー 千町原の草刈り

観察会案内

- ー 巣箱・かんじき作り
- ー 野鳥の観察
- ー 冬を生きる動物たちの生態
- ー 雪原のトレッキング

お し ら せ

● 冬季閉館について

高原の自然館は11月26日より冬季閉館となりました。今シーズンもありがとうございました。次回開館は2009年4月25日です。冬季連絡先は、北広島町芸北支所（電話 0826-35-0114）となります。メールはいままで通りご利用いただけます。

● 高原の自然館ホームページの一時停止について

高原の自然館ホームページは、事情により12月中旬まで、一時停止しています。このため、ニュースレターのpdf版もダウンロードいただけない状況となっています。恐れ入りますが、いましてばらくお待ち下さい。

● 千町原の草刈りを実施しました

千町原の草原景観と生態系を保全するための活動として、11月23日に草刈りを実施しました。今回は、来年4月に予定している「野焼き」の準備として防火帯をつくるとともに、登山道付近の整備を行いました。詳しくは次号「苅尾電波塔」でご報告します。

観 察 会 報 告

● ゴギの産卵観察会

開催日時：2008年11月1日(土) 9:30

講師：内藤順一

昨夜の雨がすっかりあがり、暖かな観察会の朝となりました。八幡高原センターに11名の参加者が集まりました。今回の講師の内藤先生より、ゴギの生態についての詳しい説明から始まり、繁殖の様子がわかるビデオを見て現地での観察に備えました。ゴギは「日本海側の川の最上流域に生息するイワナ」といわれていますが、発見した場所がはっきりと特定されておらず、変異の経緯上でもイワナの分類は困難であることが資料や先生からのお話でわかりました。またゴギの地方名や、学名のお話、ヤマメやアマゴ、サツキマスのお話と多岐に渡り興味深い知識を得ることができました。産卵の様子も、先生が撮られたビデオをもとに、じっくりと解説していただき、現地での観察がますます楽しみになりました。はやる気持ちをおさえ、車に分乗して、現地へ向かいました。移動の途中では見頃を迎えている紅葉が秋を感じさせてくれました。昨年の観察会でゴギの姿を見ることのできたポイントでは、今回は見る事ができず、産卵床だけ確認できました。今朝内藤先生がペアを確認したというポイントでも、見る事ができず、今日は姿をみるのはむずかしいかな、という話をしていたところ、別のポイントで先生が手招きをするので近寄ってみると、ゴギのペアがいました！メスが産卵床を掘り、オスはメスに近づこうとする別のオスを追い払っては、また近づき・・・という行動をくりかえしていました。道路沿いからよく見える場所だったので、メスのおなか婚姻色で赤いことや、大きさをから2年目同士のペアだということ、産卵床の砂が掘られてガレが見えることなど、肉眼でも確認することが出来ました。産卵するにはもう少し時間がかかるだろう、とい先生が言われていたので、観察会中に産卵の様子を見ることはできませんでしたが、ゴギの産卵生態がとてもよくわかりました。例年に比べ、早い時期の観察でしたが、参加者全員でじっくりとゴギの姿、生息環境を目の当たりに見ることができ、楽しい観察会となりました。[こ]



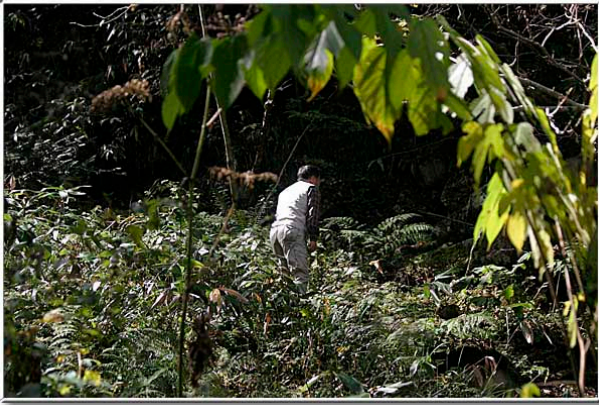
最初に高原センターに集まり、資料を見ながら内藤先生のお話を聞く。産卵については、ビデオを見ながら詳しく解説していただいた。



川を気にしつつ、景色も楽しむ参加者。



最初のポイントに到着。ここには姿を見る事ができなかった。



次なるポイントへ移動。内藤先生が、そっと近づき確認。残念・・・ここにもいなかった。



時折メスが体をひるがえし、尾で産卵床を掘る。おなかに見える赤い色は、メスの婚姻色。産卵まではもう少し時間がかかりそうだ。



やっとゴギの姿を見ることができた！警戒心が強い魚なので、観察はそろーり、そろーり。



ゴギの方もギャラリーに慣れてきた？？肉眼でも見えるけれど、双眼鏡を使ったら、体の模様などがはっきりと見えた。



奥がオスで、手前がメス。オスがメスに近づいたり、離れたりをずっと繰り返していた。ゴギの特長である、白い斑点が頭部まであるのがわかる。

【みなさんの印象に残った物】

「ペアリングになったゴギ」「ゴギのペアの姿(2)」「ゴギを見れたこと」「自然の営みに感動した。」「産卵前のゴギを見ることができたこと。」「ゴギのさんらんの所」「ゴギの産卵現場が見れた。」「おいかけっこをしていたところ。」

【参加したみなさんの感想 (抜粋)】

「実際には見れないと思っていたが、最後に見れてよかった。」「自然を残すことは大切な事だと思った。」「事前の詳しい説明でよくわかった。」「初めて観察会に参加しましたが、とてもよかったです。」「ゴギのさんらんがなかなかみれなくてぜんねんだった。」「ゴギが見られて良かった。」「どんなところに産卵床を作るのかが実際にみてよくわかった。」

観 察 会 報 告

● 紅葉と冬芽の観察会

開催日時：2008年11月1日(土) 13:30

講師：齋藤隆登

午前中から引き続き参加された方も含め、8人で掛頭山へ行きました。現地へ行く前に、今日の資料「広島県産落葉樹木冬芽図譜」齋藤隆登氏作成を見ながら、101種の中から掛頭山で見られるであろう植物のチェックをしました。山頂までは上がりず臥竜山からの縦走路が合流する付近に車を止めて、しばらく車道を歩きました。まだ紅葉していない木も多く、つい葉っぱで特定してしまいがちになりながら、クリの枝を例に、去年今年の成長度、すでにできている冬芽の確認、樹皮の特徴などのお話を聞きました。ウリハダカエデの冬芽や樹皮、ヌルデの枝にめり込んだ冬芽と馬蹄形の葉痕、エゴノキの上下2段構えの冬芽は虫に食べられるなどハプニングがあったときの予備で有ること、やはり2段構えのアサガラの子、リョウブの樹皮や枝振りの話、同じカエデでもイタヤカエデやウリハダカエデの冬芽とオオイタヤメイゲツやハウチワカエデなどの冬芽は違ってハチマキをして毛が生えている、カシワのかたまった複数の冬芽や樹皮、コシアブラの葉痕に見られる維管束痕は11コでタカノツメの7コと区別出来る事など、たくさんのお話を聞き、車の往来が激しいので登山道へと進みました。林内には下生えとしてチュウゴクザサがあり、イヌシデの枝の毛、アズキナシのちよつとふくらした芽で別名ハカリノメのとおり枝に白く点々が見られる事、その他ウワミズザクラ・ブナ・スノキ・サルナシ・ハリギリ・ハウチワカエデ・オオウラジロノキ・ヤマハンノキなど観察しました。登山道から再び車道を歩いて下山しましたが、ウリハダカエデの紅葉など美しい中、のんびりと楽しく観察会ができました。下山中道路にクマのフンが多数あったのにはみんなびびり。落とし物を踏まないよう気をつけて歩きました。[や]



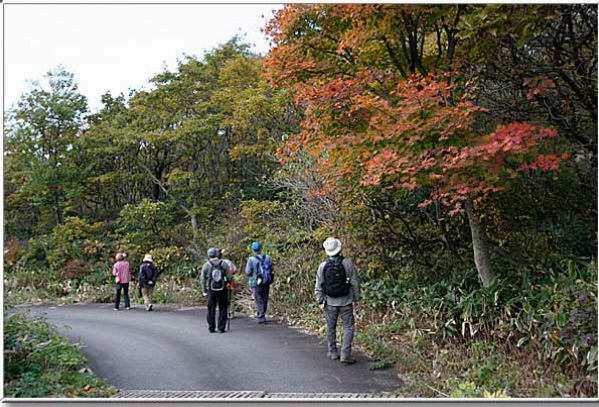
講師の齋藤先生。



冬芽や葉痕をじっくり観察。



ブナはまだ黄葉していない。とがった冬芽。



モミジの紅葉を楽しみながら下山.



足元注意、ドングリを食べたクマのフン有り.



カシワの黄葉とどんぐり.



ホオノキの大きな葉っぱ.



ウリハダカエデの紅葉と種.

【みなさんの印象に残った物】

「枝が一年で伸びた量を推測できたこと」「サクラの仲間も葉柄内芽があるのか、印象に残りました」「初めての参加ですが 又参加したい」「いろいろな木をしてよかったです。」「冬芽の見方を違いをあげて説明して下さった。」「大変お天気がよく紅葉もきれいで一日楽しく過ごしました」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「きれいな黄（紅）葉とクマのフンの多いのにびっくり」「人数も適当で質問も充分させていただきありがとうございました」「先生のせつめいが、とてもわかりやすかったです。」「先生によく説明していただき良かったです」

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳
作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● 巣箱・かんじき作り

開催日時：2008年12月6日(土) 9:30
集合場所：八幡高原センター
講師：暮町昌保、坂井健作
準備：工作ができる服装
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、高校生以下は無料)
材料費：巣箱300円、かんじき1200円

巣箱を利用する小鳥のおうちを作りませんか？比較的簡単に作れますので、お子さんにもオススメです。そしてもうひとつ、雪歩きが楽しくなるアイテム“かんじき”を手作りしませんか？ひも結わえていくのは、少々難しく頭の体操にもなりますよ。この冬は自作のかんじきで雪歩きはいかがですか？

● 野鳥の観察

開催日時：2008年12月7日(日) 9:30
集合場所：高原の自然館
講師：上野吉雄
準備：基本セット、双眼鏡、フィールドスコープ
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、高校生以下は無料)

八幡高原で冬を越す鳥たちを観察します。厳しい冬に鳥たちはどんなものを食べ、どんな生活をしているのでしょうか。草地、湿地と場所を変えて観察します。しっかりと防寒してきてくださいね。

● 冬を生きる動物たちの生態

開催日時：2009年1月18日(日) 10:00
集合場所：高原の自然館
講師：上野吉雄
準備：基本セット、かんじき(レンタルもあります、¥200)
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、高校生以下は無料)

雪で覆われた草原を歩き、動物たちの生態を観察します。雪の上には足跡や、フン、植物の食痕など動物たちが生活しているサインがたくさんあります。雪が多い場合は、スノーシューやかんじきを履いて歩きましょう。

● 雪原のトレッキング

開催日時：2009年2月21日(土) 10:00
集合場所：高原の自然館
準備：基本セット、かんじき(レンタルもあります、¥200)
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、高校生以下は無料)

今年の積雪量はどのようにでしょうか？雪の深い時期にしか歩けない場所を歩いたり、いつもと違う草原の景色を楽しみませんか？かりおの樹氷も見られるかもしれません。雪が多い場合は、スキーやスノーシュー、かんじきなど準備くださいね。

編集後記：自然館は冬季閉館になりました。お隣の食堂や野菜売り場、近所の喫茶店も冬季の閉店になり、なんとなく寂しい雰囲気が漂っています。それでも、機会があるごとに千町原から二川にかけての道を通ってみます。草刈りがなされた千町原と八幡湿原自然再生事業の霧ヶ谷。変わり続けるこの場所の行く末を思って、ひとり嬉しい気持ちに浸っています。

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原119-1
tel. & fax : 0826-36-2008
<http://shizenkan.info/>
staff@shizenkan.info